



## IRP's Build Back Better 事例(1995年、2011年、日本)

### 災害コミュニティFM放送

#### ～地域に根ざし、被災者ニーズにあった放送～

2015年10月6日

#### ☆被災者への情報提供☆

1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災の直後から被災地域および全国各地から、被災地域に住む人々の安否を確認するための情報が求められました。その後、被災者が求める情報は、道路や鉄道の復旧などの交通情報、避難所や仮設住宅などの住宅情報、給水の時間や場所、電力やガスの復旧状況といった生活支援情報など、多岐にわたり、時間の経過とともにめまぐるしく変化していきました。しかし、その要望にこたえられる仕組みが充分ありませんでした。

#### ☆災害コミュニティFM放送の開始☆

新聞、テレビ、ラジオという既存のメディアでは大量のスタッフによる取材活動を基に、被災者や被災地の実情を伝えましたが、メディアだけでは情報が届きにくいため、被災地向けに「災害時における放送要請に関する協定」に基づき地元放送局が安否情報や生活情報を発信しました。さらに、全国初の災害情報局として臨時災害FM放送局(復興通信FM796 フェニックス)も開設されました。とくに、外国人に対する情報提供が遅れていたため、情報を提供するボランティアが誕生しました。神戸市長田区の被災者支援団体「たかとり救援基地」は、1995年1月30日から「FMヨボセヨ」、同年3月3月28日から「FMユーメン」によって多言語による被災地情報を発信しました。震災から1年後の1996年1月17日、2つのFMからコミュニティ放送局「FMわいわい」が開局し、10カ国語で被災生活情報を提供20年間活動を続けています。

2004年に発生した新潟県中越地震で、FMながおかは全国で初めてコミュニティFMが臨時災害FM局になりました。また、十日町市でも臨時災害FM局が立ち上がりました。2011年に発生した東日本大震災では、大災害を経験した神戸や長岡のFM局を得て20局以上が立ち上がり、臨時災害FM局の放送を行っています。

#### ☆IRP's Build Back Better ポイント☆

1995年の阪神・淡路大震災以降、災害が発生した後、安否情報や交通情報など情報の種類に応じて、きめ細かく住民に伝達する有効な手段の一つとしてコミュニティFM放送が活用されました。また、大規模な災害が発生した際に、臨時災害FM放送局を立ち上げるノウハウや技術、経験が情報弱者対策として支援するネットワークが広がっています。

□参照□

兵庫県『伝えるー阪神・淡路大震災の教訓ー』ぎょうせい、2009年、26頁

FM わいわい <http://www.tcc117.org/fmyy/hystory/index.html>

FM なおおか <http://www.fmnagaoka.com/disaster/>